

# 磐城日報

発行所 磐城日報社  
電話 (一) 九七〇  
印刷 磐城日報社  
毎週水曜日休刊  
一ヶ月三十四日  
購読料 郵政省  
第一四〇

## 泌尿器科

性病科

平市縣社下  
矢吹醫院  
電話 1193・1295

## 郡下の麥供出振わ

### 八月末日現在で四割弱 各地區に督勵班出動

郡下麥供出状況は豫想外に城地方事務所では九月末日振わす縣食糧事務所平出張げん在で供出完了しようとして八月末日現在の集計によつて當所長崎崎氏の采配によりれば供出數量は七千七百六十六班からなる供出督勵班を五石で割當二万二千四百三十三編成し去る一日から各地に石に對し三十五パーセント出動している

## 若人の讀書熱昂る

### 圖書の利用率は増加

平市圖書館の圖書部数は現在まで雜誌千三百四十三冊、單行本千五百二十七冊計二千八百七十冊が整備され市内の讀書家に大いに利用されてゐるが政治、經濟、文藝、娛樂など圖書館による市民の文化向上の一端にしようとして市當局及び係員はアレヤコレヤと頭を痛めてゐるが、開館以來の圖書利用動態を月別にみると次のようである

四月	(四百六十三)
五月	(六百八十一)
六月	(七百)
七月	(七百八十)

計二千六百二十四冊が愛讀され利用サツ數が月毎に上昇しつゝある傾向

## 舊盆手當代りに

### 市側二万圓を支給

平日自由労働者百余名は去る一日市役所に押しかけ鈴木を盗まれ市署に届出した

## 水稲に二重出穂

### 水田一帯白波と變り 約一千石の減收

小名浜町富岡、大原、住吉、島の四部落地帯の水稲約五割が二重出穂の生理障害を被つており、豫防策として、八割程度の減收となるが、尚被害は數十年このかた發生したことがない

### 勿來に銅線ドロ

去る二日夜勿來町久保田地内の大日本勿來から三澤新田牛乳店脇附近を通行中、

### 花火大會に

二つの盗難

草野村下神谷字館野三七鐵道員作田亮さん(29)は二日午後九時ごろ平市鎌田で花火大會を見物、同地内の岡旭化成二日 日立 日東訪二

### 大阪造船に賊

平市堂ノ前四大阪造船平製鋼所で三日午後五時から四日午前七時四十分の間に作業所便衣室内の上衣三着ズボン三着シャツ、手拭な計十七点二千三百圓相當を盗まれ市署に届出した

### 公民館運営審議會

八日市役所で新尼子橋はげん在の尼子橋から約三百メートル上流に工費千四百萬圓で架設され八分通りできあがり十月中旬までには完成する豫定であるが、橋長は四十八メートル巾十一メートルで、尚新橋の架設と同時に内郷町御厩と平市長橋とをちよく線に結ぶ新道の新設工事が進められてゐる

### 縣漁業協組

水産育成強化をねる

縣漁業連合協同組合では去る二日四倉町縣漁連事務所役員會を開き明年三月までの水産業團體育成強化策として四十八萬圓の豫算を計上、次の事業を行う旨決定した

- △水産行政機構強化
- △水産課税の適正化を計るための資料調査
- △漁船の海難防止策及び遭難救助策

### 鐵筋製尼子橋

十月中旬ごろ完成

### (株式速報)

概況 値が株中心に賣物がつつき全般に軟弱をつけた四日十一時半現在平和證券調べ

日 石 九 日 鐵 石	昭和油 帝 石 六
日 化 藥 六 三 井 造 二 五	日立 造 五 日 平 産 三
精 工 興 洋 洋 興	鐘 紡 四 東 洋 紡 二 六
富士 紡 二 〇 大 日 紡 一 〇	片 倉 三 郵 船 二 四
商 船 二 六 三 井 船 三 三	東 海 上 三 鋼 管 三 三
東 邦 鉛 三 日 麥 酒 四 五	日本 七 三 磐 城 七 五
帝 人 二 六 東 洋 七 〇	旭 化 成 二 日 立 一 三
キリン 三 七 日 東 訪 二 三	

## (A 級) 平市内衛生施設優良店御案内 (順不同)

朝風呂有ります

### 旅館 甲陽館

平市中央通り  
電話一四八番

衛生設備完備  
密林の女豹 II 上映中

### 映画は 世界館

平市中央通り  
電話六・一〇五六番

一日の疲勞回復とヨゴレ一掃に

### 浴場 山梅の湯

平市田町  
電話七二一六番

初秋の頭髮のお手入れは

### 理髮所 大床

平市銀座通り  
電話五五二番

内風呂の設備あり

### 旅館 末廣

平市田町  
電話四二一一番

